

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年9月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1270500752
法人名	社会福祉法人 穩壽会
事業所名	認知症高齢者グループホーム かえて
所在地	〒266-0003 千葉県緑区高田町1084-2 (電話) 043-292-2673

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティケア研究所		
所在地	〒260-0026 千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働福祉センター5		
訪問調査日	平成20年9月25日	評価確定日	11月18日

【情報提供票より】(20年9月3日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	3人, 非常勤 11人, 常勤換算 6.8人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	平屋 建て	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有( )円 ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(180,000円) 無	有りの場合 償却の有無	○有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり			1,200 円

### (4) 利用者の概要(9月3日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	10名	要介護2	5名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.8歳	最低	74歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	武村内科医院、千葉南病院、谷中歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームはJR外房線誉田駅北口から徒歩15分、千葉市東金有料道路高田・誉田IC、又中野ICからそれぞれ7分の所に位置し、農地の中の戸建団地に囲まれた広い敷地内(約1,528.26坪)に所在する。隣接して同系施設として、武村内科医院、特別養護老人ホーム「裕和園」、軽費老人ホーム「ケアハウス・グリーンユウ」、介護老人保険施設「総和苑」が建っている。ホームは鉄筋コンクリート平屋建てで、千葉市優秀建築賞を受賞している。全室南面で大きなガラス窓の居室と、自家菜園で作られた野菜が食卓にのぼる等、恵まれた環境にある。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回外部評価での課題であった市との協力体制や連携のあり方については、市のグループホーム協会の活動を通して市側との意見交換、事故報告や相談を頻繁に行う等し、連携を密にして、より一層の地域密着型ホームとなるように努めている。あまり面会に来ない家族への対応は、各種行事への参加を呼びかけ、話し合いの機会を作る努力をしている。家族会未結成の件は、家族の意向を尊重して慎重に話し合いを進めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)  各ユニット毎のミーティングや職員会議において、見落とし課題はないか、改善すべき課題はないかを検証し、検討している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)  運営推進会議は、家族が多数参加出来るように、バーベキュー大会等ホームの行事に併せて開催している。自己評価、外部評価等の開示、改善計画、各種報告、事業計画、今後の取組みなど、テーマを設けて討議している。運営推進会議での討議内容は職員会議で伝え、改善事項があれば検討し、改善に向けて努力している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)  家族の意見、苦情、不安には全職員が対応している。その他に市の介護相談員の顔写真入り紹介状を玄関に貼って馴染みを深めようとし、家族等への対応にあたっている。家族からの要望意見等には、介護相談員と職員で意見交換をし運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  自治会に加入して、地域行事に参加するほか、ホームの行事に近隣住民を招待するなど、地域との連携を深めている。今後は認知症に関する出前講座を実施したり、ホームの敷地を地域行事に使ってもらうように働きかけている。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個々の役割を生き甲斐につなげる支援、質の高いサービスの提供」という理念がある。これをさらに具体的な文言に変更しようと、管理者・職員と話し合いを行っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は管理者、職員間の合意で作上げたもので、愛着があり、玄関、事務所、食堂など複数箇所に掲示、常に理念を意識して努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域団地の自治会に加入し、町内運動会や八幡神社の初詣、秋祭りに参加している。また年1回ホーム主催のバーベキュー大会に地域の子供たちを招待したり、敷地内の芝生広場を近隣住民に開放し、サッカーを楽しんでもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価で見出された課題については、職員同士で意見を出し合い改善計画を立て、その実施に取り組むべく努力をしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括支援センター職員、民生委員、町内会長、家族代表、管理者、職員、同法人の他施設職員等が出席して、2ヶ月に1回開催している。会議では事業所からの報告とともに、参加メンバーからの質問、意見を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市グループホーム協会を通じた行政との親睦会や、事故報告・相談等の際に行政と話し合い、意思の疎通を図る努力をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	同法人の施設であるグリーンユウワや裕和園との合同広報誌「つなぐ手」に、入居者のスナップ写真を掲載して配布するほか、毎月の請求書送付時に入居者の写真を添えた報告を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見、不満、苦情は職員が対応している。また問題を公正中立な立場で円満に解決するため、施設側と直接的な利害関係のない第三者委員(介護相談員)と面談する機会を設け、積極的に聴く努力や場面づくりをしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は同法人の特養へ異動することもある。引継ぎ期間は1ヶ月、家族には特別に通知をしていない。新任職員はベテランのリーダーが指導し、入居者の動揺を少なくすべく、努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる取組みとして、同法人内での合同研修の他、順番に外部機関の研修に参加している。この場合の費用は事業所負担とし、公休扱いにして研修を推奨している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国、県、市の各グループホーム協会に所属する他、地元ケアマネ連絡協議会、地域ケア会議にも出席し、勉強会、情報交換等交流をはかり、同業者とは日常的に相互訪問している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>現在12名の入居待機者を抱えている。退居は年1～2名で、待ち期間は5～6年。見学は受け付けるが、体験入居実施はしていない。入居希望者とは職員が面接し、家族から入居希望者の生活歴、希望等を聞き、コミュニケーションを図っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調査員が入居者の入院の事を尋ねたところ、その方が居ないことがさびしく、いない間に他の入居者にその人の良さを伝えたいと、涙を浮かべながら話すスタッフに接し、親身に接し共に支えあう姿を見たように思う。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者一人ひとりがどんな思いを抱えているかを把握するのはケアの大前提だが、このホームでは、日常的に入居者とスタッフが出来るだけ1対1で向き合い、日々の会話の中で把握する努力をしている。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者が出来ること出来ないこと(例えば食事をうまく口に運べないなど、それぞれにハンディを抱えている)をよく理解している。また「もう少し運動させて欲しい」といった家族の要望なども十分織り込みながら、入居者に合った介護計画(ケアプラン)をつくっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>年齢とともに変化する心身の状態を見極めながら、個々のケアプランを3ヶ月ごとに見直し、半年ごとに新しいものに作り変えている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの入居者には柔軟なサービスを提供しているが、同法人の他施設の機能を利用するといったことまではしていない。	○	同法人には、認知症高齢者のケアについて専門性を備えた施設が多数ある。入居者がより自分らしい生活をするために、事業所の持つ様々な機能を施設横断的に利用できると、さらによいと思われる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人理事長が院長をしている内科医院が敷地内にあり、入居者の診療と健康管理にあっている。同院長は認知症の専門医でもある。ほかに地域の総合病院と歯科医院が協力医療機関になっており、必要な場合は家族が付き添い、通院している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は同法人の特養に移ることも可能であるが、過去に移った入居者はいない。住み慣れた住まいで馴染みの人に見守られ終末期を迎えたい、というのが高齢者の願いであり、同ホームでは、重度化した入居者でも主治医や家族と相談しながら、出来る限りホームの生活が長く送れるよう努力しているとのことである。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への声かけには「○○さん」と名前をよび、排泄介助のときには声の大きさに気をつけるなど、入居者の尊厳には十分気配りがされている。スタッフの多くが50歳代の主婦だという点も、高齢者理解にプラスになっていると思われる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	このホームではゆっくり食べる人はゆっくり、入居者個々のペースを大切にしている。理髪や美容、近隣への買い物などの希望にも出来るだけ応え、付き添えるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から配膳、片付けなどに入居者一人ひとりが参加できるように支援している。調理が得意な入居者の一人は、毎食の献立まで提案して腕ふるい、いまでは「料理長」と職員から呼ばれるほどの人気者だ。また、天気の良い日には芝生の庭にテーブルを並べ、ユニットごとの食事を楽しんだりしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を基本にしている。順番などは決めておらず、午後1時から夕方までの間、自由に入浴できる。就寝前の入浴希望などにも余裕があるかぎり応えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	前述の料理が得意な入居者は当初、車いすを利用して。食事作りに参加してからは、食材を買いに近所まで歩いて出かけられるまでになった。以前ペンキ屋だった入居者は、庭のベンチの塗り替えなどに活躍している。ホーム理念の「個々の役割を生きがいにつなげる支援」が実践されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に沿って、出来るだけ毎日、買い物や散歩に出かけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出来る限り鍵をかけないケアを工夫している。玄関や勝手口のドアには鈴や、開けたらメロディーが鳴るセンサーを設置して、入居者の出入りを察知できるようにしている。入居者によっては「家に帰りたい」と訴える場合もあるので、そのような方の所在確認には特に気を配っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	勤務者の少ない夜間想定避難訓練を重点的に行うようにしている。万一の際には近隣にも救援してもらえよう運営推進会議でお願いしている。職員だれもが応急手当や初期対応できるよう千葉県防災普及公社の救命講習の受講も始めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、魚、野菜など栄養バランスに気を配ったメニューを心がけ、また水分摂取に関しては、特に便秘がちの入居者の水分確保に注意している。食事管理と併せ、週1回のバイタルチェックと月1回の体重測定を実施し記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体がガラスを多用して明るいのが特徴。回廊式に設計された建物の中庭はウッドデッキが設けられ、庭にポランティアが植えた季節の花々や菜園が入居者だけでなく近隣にも楽しまれている。屋内の共用スペースも花や絵、写真などが飾られ、安らぎの場になっている。掃除が行き届き、廊下に塵一つ見当たらない。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には箆笥やテーブル、ベッドまで使い慣れたものが持ち込まれ、自宅で暮らしているような環境を作っている。どの部屋も整理整頓が行き届いている。		